

## 【震災記念日】

震災忌

伊勢湾台風の被害があった翌年の一九六〇年、閣議了解によって、それまで関東大震災の慰霊祭が行われていた九月一日を、「防災の日」と定めた。八月三十一日か九月一日は、台風の襲来が多い二百十日にあたる。

阪神・淡路大震災の発生日である一月一七日は、「防災とボランティアの日」に定められた。この震災後の活動を日本のボランティア元年だという人もいるが、江戸時代の火消が典型的なボランティアで、その伝統を受け継ぐのが現在の消防団であり、これは世界的に誇れるボランティアの歴史だと私は思っている。

東日本大震災の後、一月五日が「津波防災の日」と制定された。この日は、一八五四年安政南海地震の起こった日で、暗闇の中で村人たちを高台に避難させた「稲むらの火」の言い伝えに因む記念日である。

関東大震災の死者と行方不明者は計一〇万五三三五人と言われているが、その中で火災によるものが九万一七八一人である。阪神・淡路大震災ではほとんどの死者が圧死であり、東日本大震災では死者のほとんどは津波による水死であった。

変動帯にある日本列島では、地震や噴火や津波が多く、大震災の記念日も次々と発生する。それぞれの震災から、それぞれの教訓を学ぶことが大切である。